バズ学習を中心とした双方向的授業の展開

附属教育実践総合センター・太田佳光

１、本授業のねらいと概要

本授業は、教職に関する必修の専門科目であり、教育学部の３回生（A・B）１３５名による大きなサイズの授業であるが、学生の主体的な学びを促進するために、双方向的な授業を試みた。

大教室における双方向的授業を実践するために、良く知られているバズ学習を取り入れた。２～３名での話し合いをその場で行うため、手軽に学生たちの考えを聞くことが出来、その結果を授業に活用できると考えたからである。

なお、本学部のディプロマ・ポリシーの「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を有している。」項目に関係する。

授業概要は以下の通りである。なお、シラバスに、授業展開の中で若干の変更を加えた（附属小学校の子どもたちの授業参観があり、特別な内容にした事と、聴覚障害の学生のために、ビデオに字幕を入れる期間が必要であったため。）

第１回：特別活動の実際と課題
第２回：特別活動の理論（１）教師の勢力
第３回：特別活動の課題（１）進路指導
第４回：特別活動の課題（２）生き方指導
第５回：特別活動の理論（２）教師の勢力
第６回：特別活動の実践（１）学級活動１
第７回：特別活動の実践（２）学級活動２
第８回：総括と試験

２、本年度の授業の工夫

教師の一方的な講義にならないよう、随時質問を行い、バスによる話し合いの結果を全体に出させた。その結果、授業に活気が出て、活発な議論が展開されることもあった。また、出席を取るためのカード（大福帳）を使用し、当日の授業の感想や意見、質問などを受け取り、次回の授業に生かすようにした。

なお、第３回の授業において、附属小学校の児童数名が参観に訪れた。そのため、小学生にも分かる内容に工夫し、クイズ形式の授業展開を試みた。その結果、受講学生からも「刺激的な授業だった。」「クイズも面白かった。」等の感想を聞くことができた。

３、学生による授業評価の概要

授業終了時に、学生に対して無記名のアンケート調査を実施した。本年度は自由記述方式を用いた。数量的評価を用いなかったのは、本アンケートを今後の授業改善への一助としたい思いが強かったからである。（自由記述による、より詳細な感想や要望を中心として知りたかったから）。

その結果、以下のような意見が聞かれた。

まず、授業の方法について。

・「講義全体を通して、実践例などの経験知に近い部分と教育社会学などの立場からの専門的知識がバランス良く学べたので、とても有意義でした。是非、来年もこのような授業をしてあげてほしいです。」

・「学級づくりに関するいろいろな実践例のビデオを見て考えていくことが、すごく良かったです。あまりうまくいかなかった事例など、その原因について考えることができ、勉強になりました。」

・「授業全体を通して、ビデオなどの映像教材を使って、具体的な場面を示して下さったので、非常に理解しやすかったです。」

次に、授業の効果について。

・「私は中学校の教師を目指しているが、この授業を受けてさらにやりたいという気持ちが増した。人に全力でぶつかって、さらに育てることができて、成長を間近で感じることができる職業は、他にはないと感じた。」

・「教員志望の僕としては、子どもたちとの信頼関係を築きあげることができるのか、どのように接していけばいいのかなど、不安なことがたくさんありましたが、それらの答えを導きだすための良いヒントをいただいたと思います。」

・「学級づくりについての学びが出来て、自分にとっては大切な時間となりました。有難うございました。」

以上のように、おおむね本授業に対する学生の評価は高いことが分かったが、今後改善すべき点も多くあると考えている。アンケート内容を詳細に分析し、次年度に向けて、さらに改善を図っていきたい。